

# 教師が互いに学び合いながら協働性を高める校内研修の在り方についての基礎的研究 —子ども理解を基にした対話による授業研究を核として—

龍郷町立戸口小学校 教諭 永岡 重孝

## —目 次—

I	はじめに	1
II	研究主題と研究主題設定の理由	1
1	今日の教育課題から	
2	本県の教育事情と先行研究から	
3	教職員の意識調査から	
4	学校教育目標と校内研修の特性から	
III	研究の目標・仮説及び実証のための具体策	4
1	研究の目標	
2	研究の仮説と仮説実証のための具体策	
3	これまでの校内研修と本研究で提案する校内研修について	
IV	研究の実際	5
1	一年目の実践	
2	二年目の実践	
V	研究の成果	9
VI	今後の課題	9

## 【参考文献】

- 小学校学習指導要領 解説 総則編(平成 29 年)
- 小学校学習指導要領 解説 算数編(平成 29 年)
- 大島地区 奄美教育実践論文集(平成 20 年～平成 30 年)
- 北薩地区 教育実践論文集(平成 25 年～平成 30 年)
- 始良・伊佐地区 始良・伊佐教育実践論文集(平成 25 年～平成 30 年)
- 今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)(平成 18 年)
- 龍郷町立戸口小学校 平成 31 年度 教育課程(学校経営)
- 教師が思いを出し合える校内研修に関する研究(鹿児島大学大学院教育学研究科 戸高, 2016)
- 毎日新聞「都道府県別・全国学力学習状況」(2013～2018)
- NITS オンライン研修「校内研修シリーズ」(学校組織マネジメントⅠ・Ⅱ・Ⅲ)  
(研修の企画・運営・評価)
- 「授業研究」を創る 鹿毛雅治・藤本和仁 著 教育出版
- 内外教育 校内研修の改革—学びを中心— 第 6642 号 時事通信社(平成 30 年)
- 高等学校における校内授業実践研究進め方ガイドブック 大阪府教育センター(平成 30 年)
- 「学校のチーム力」を高める校内研修の進め方—組織マネジメントの観点からのアプローチ—  
鹿児島県総合教育センター 指導資料 校内研修 第 7 号(平成 29 年)

## I はじめに

本研究は、教職員の学び合う力を高めることによって学校の組織としての協働性も高めていこうとする校内研修の実現について実践したものである。本研究の着想に至った背景には、「授業を生業とした本職業において、職員同士が授業について語り合う意識が希薄である」「研究授業や公開研究会等を通して培った経験が職員の流動性等といったシステムの中で継続・拡充・深化しにくい」「教員によって指導の仕方や実践する姿勢に温度差がある」「これまで多くの実践研究が行われてきているにもかかわらず、そのすばらしい実践が浸透してきていない」といった学校組織が抱える課題に疑問を抱いてきたという経緯がある。そこで、もう一度、一人の教員として、また、校内研修をまとめる研修係として、教職員や学校組織としての基本的前提を問い直し、学び続ける教師であるための成立要件について改めて考えたいとした。なお、本研究をもとに同じ課題を感じ、悩まれている多くの教職員にと、その一助となれば幸いである。

## II 研究主題と研究主題設定の理由

### 1 今日の教育課題から

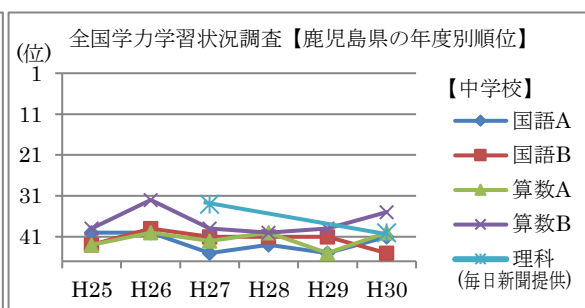
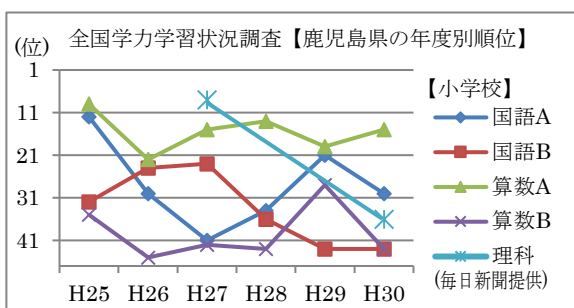
私たち教職員が『学校教育の質』の確実な保証を図るためには、それを担う教師の指導力や資質の向上が不可欠だと考える。そこで、中教審答申(H18.7)「今後の教員養成・免許制度の在り方について」を参照すると、「社会構造の急激な変化への対応」「学校の教員に対する期待の高まり」「学校教育における課題の複雑化・多様化と新たな研究の進展への対応」「教員に対する信頼の揺らぎ」「教員の多忙化と同僚性の希薄化」「退職者の増加に伴う量及び質の確保」等の点が挙げられ、教職員の資質・能力をこれらの社会的・教育的要因の側面から問い直す必要性があったことが分かる。令和元年度より小学校で全面実施される新学習指導要領においても、この認識に立ち、教職員や学校組織は様々な課題の解決を求められる。しかし、**課題の複雑化**、**多様化**、**高度化**によって単に個々の教師の力によって対応することは難しくなっているため、教師の資質・能力の向上と学校組織全体の在り方が問われている。



### 2 本県の教育事情と先行研究から

本県は、明治維新を成し遂げた西郷隆盛や大久保利通らを輩出した歴史と伝統をもち、教育的側面では、郷中教育など昔から教育的意識が高い県としても知られている。しかし、現在の教育事情は決して満足できるものではない。例えば、先に実施されている「**全国学力学習状況調査**」について分析してみると**過去5年間では学力調査の順位は低迷し、伸び悩んでいることが分かる。**

(資料1)



一方、本県の各地区では、優秀な実践研究を広く募集し、そこで多くの教職員の実践が紹介されている。しかし、それらの実践が十分に浸透していないと感じられることも多く、そのことと前述した「全国学力学習状況調査」の結果には少なからず関係しているのではないかと考えた。そこで、教職員の資質・能力に影響を与えると思われる校内研修について県内のいくつかの地区の先行研究を収集・調査・分析した。すると、多くの先行研究で挙げられている課題に以下のような共通点が見られた。

(資料2)

- 教員の取り組み方に温度差があること
- 授業研究後にどのように日頃の授業に生かしているか、個人に委ねられている部分が多いこと
- 研究授業を行うとき、授業者の負担が多いこと
- 職員の必要性を考慮した上で、年間を見通した研修計画の作成をすること
- 班活動の時間を十分確保できず、他の意見を生かすことができないこと

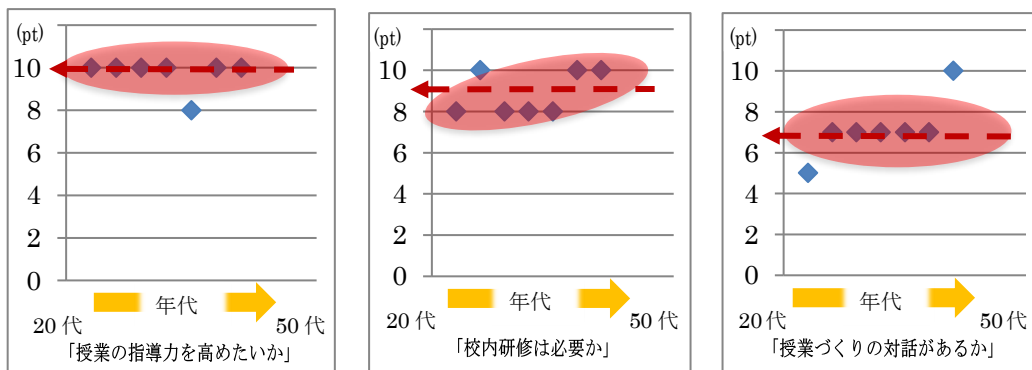
このように、本県では多くの素晴らしい実践研究が行われているものの、それらの実践がもつ教育的効果が学校現場になかなか浸透しない要因があるのではないかと考えた。一方、本研究と同様に、これまでの校内研修を見直し、工夫・改善しようとする実践も見られつつある。戸高(2016)「教師が思いを出し合える校内研修に関する研究(鹿児島大学大学院教育学研究科)」や櫻木(2019)「語り場」「学び場」としての校内研修を構築するための諸条件」などの研究は、子どもの学ぶ姿を通して見方・考え方の交流を行い、教員の学びを高めようとするものである。こうした先行研究を手がかりに、よりよい校内研修の在り方を研究することは、教員の資質・能力の向上に寄与するものだと考えた。

### 3 教職員の意識調査から

先行研究に残された課題を分析していくと、有益な教育実践や校内研修が行われてきているものの、その恩恵が普段の授業に生かされていない要因があることに気付いた。その原因を追究するため、本校の教職員を対象に意識調査を行うことで、下記のような傾向があることが分かった。また、県内各地の有志職員の方々にも意識調査に協力して頂き、県内の平均的な結果についても調査したので、併せて参考資料としてご覧頂きたい。

(資料3, 4)

《戸口小学校の教師を対象として》〔調査対象 平成30年4月1日～平成31年3月31日まで在籍した職員〕  
○調査は質問紙法にて実施した。また、質問に対して満足と感ずる数値を10段階で評価してもらった。



グラフ1

グラフ2

グラフ3

グラフ1を見ると、本校の教師たちは、授業の指導力は大切だと感じつつ、授業の指導力を高めていきたいと願う職員が多いことが分かる。また、グラフ2からは、指導力向上のた

めに校内研修が必要であることも感じている。しかし、これまで校内研修に参加しながらも、実際に普段の授業づくりについて対話がなされているかという実感のところでは、グラフ3から著しく低くなっていることが分かる。その他の質問も含めると、総合的に教職員の意識は次のように捉えることができる。

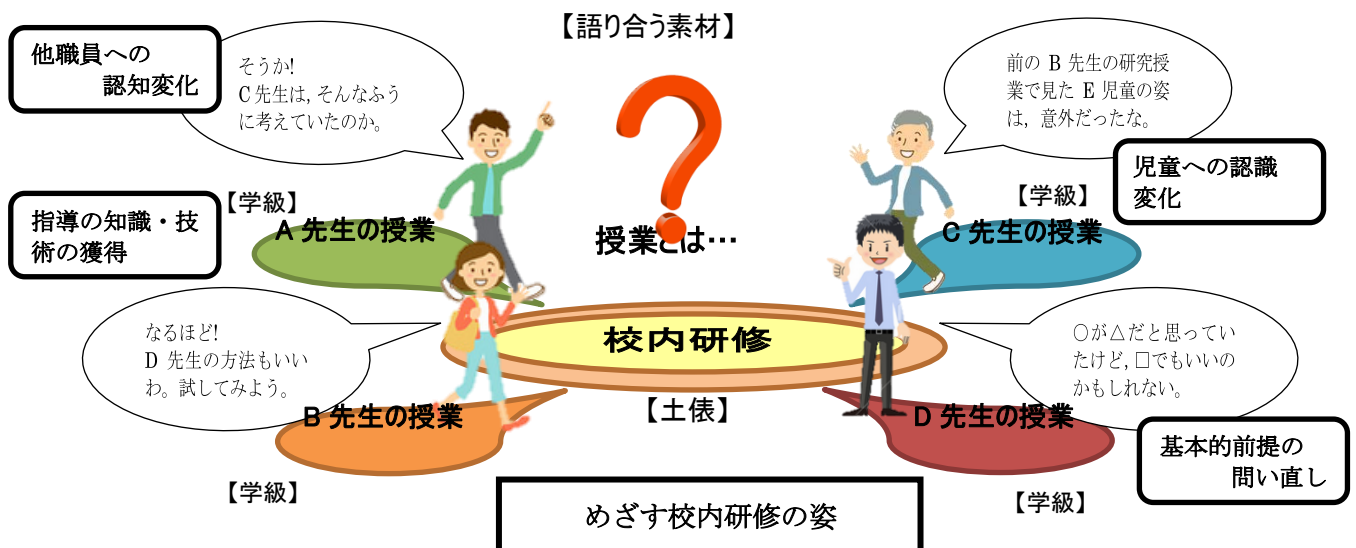
- ・ 指導力を身に付けたいと感じ、そのための研修は大切だと思っているが、職員間での授業についての対話は少ない。
- ・ 授業づくりは大切だと思っているが、研究授業には積極的になれない。

#### 4 学校教育目標と校内研修の特性から

教職員が互いに学び合うことで資質・能力の向上を図り、学び合うことで協働性を高めながら学校組織としての力も向上させていくためには、どのようなことから実践していけばよいかということについて、本県の教育事情、先行研究の分析、教職員の意識調査などから得られた知見を踏まえた上で、本校の実情に照らし合わせて考えることとした。

本校の学校教育目標は、「夢を描いて、自ら学び、心を磨き、体を鍛える子どもを育成する」ことである。これまで本校の教育活動によって、本校の子どもは学習意欲が高く、目標をもって学習する姿勢が身に付いている。また、本校は、小規模校であることから、子どもに対して教師の目が行き届きやすく、きめ細やかな配慮ができる学級編成となっている。しかし、こうした学校規模の特性がありながら、教職員が互いに学び合いながら協働性を高めていこうとする意識は、先行研究に示された課題や教職員の意識調査に見られる課題と同様である。大規模校のような複数学級による学年部としての横のつながりが薄い。実際は、個業によって学校が抱える課題に対応していく場面が多い。そこで、教職員が互いに学び合い、協働性を高める場として、校内研修がひとつの有効な機会となるのではないかと考えた。校内研修は、職員が目的をもって集まり十分に語り合うことのできる場である。また、教職員が学校で多くの時間を費やすのは、授業である。多くの時間を割いて子どもに接するこの授業を核として、教師が授業について対話し、学び合いながら、協働性を高めることを深めていきたいと考える。以上のことから、校内研修の改革を対象として研究主題を次のように設定することにした。

教師が互いに学び合いながら協働性を高める校内研修の在り方についての基礎的研究  
—子ども理解を基にした対話による授業研究を核として—



### Ⅲ 研究の目標・仮説及び実証のための具体策

#### 1 研究の目標

◎ 子ども理解を基にした対話による授業研究を通して教師が互いに学び合い、個々の特性を認め、生かしながら協働性を高めることができる。

#### 2 研究の仮説と仮説実証のための具体策

先行研究の課題や教職員の意識調査の結果を踏まえ、これらの課題を解消できるような新しい研修体制を整えることができれば、教職員の指導力向上に対する意識変化が起こると考えた。また、それが学校組織としての力を向上させるとともに、県下の教職員全体の学びに対する考えや姿勢が変化するのではないかと考えた。

**仮説** 教職員が負担なく授業を提供でき、互いの思いを出し合える授業研究の場を整えることで、主体的・対話的に教師が互いに学び合うのではないだろうか。

##### 仮説に向けての具体策

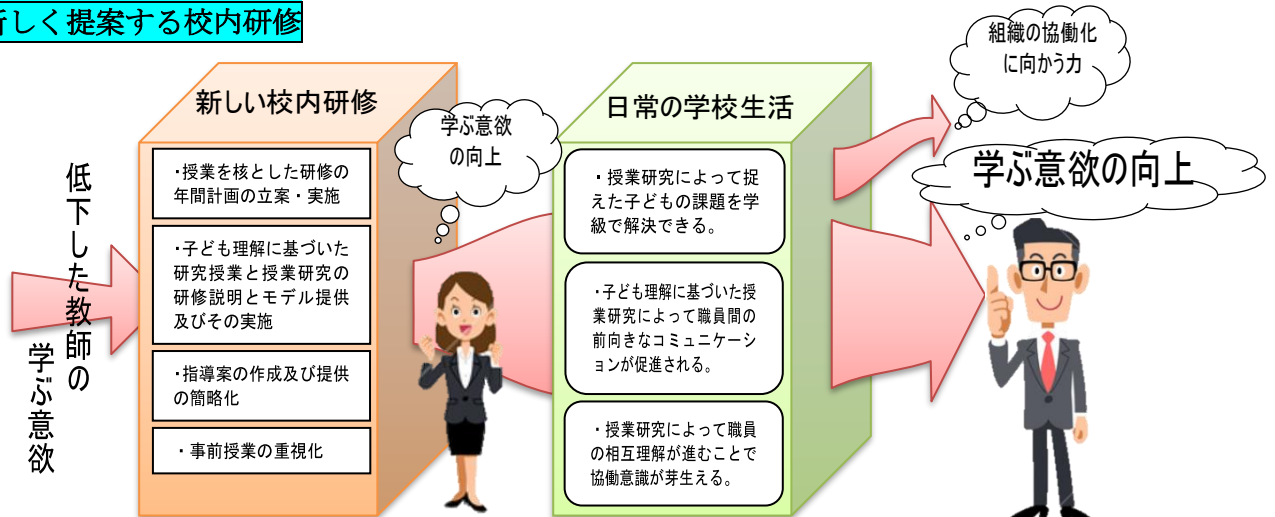
- (1) 教職員全体で共通の課題意識をもつために、事前に普段の授業の様子を撮影及び観察することで、話し合いの論点と課題を明確にする。また、事前授業のときは、指導案の作成は強要しないことで授業提供をやすくする。【**普段の授業の様子の撮影・観察**】
- (2) 授業中の子どもの事実から学び、事実に対する見方・考え方を交流するために、授業研究における学びのモデルを提示するとともに、研修で使用するVTRの選定やワークシート等、子どもの事実から学ぶための環境づくりをする。【**学びのモデルの提示**】
- (3) 可能な限り本校職員の必要感に応じた研修にしていくため、研修に関する希望調査を行い、年間を見通した研修計画を作成する。【**年間を見通した研修計画の作成**】

#### 3 これまでの校内研修と本研究で提案する校内研修について

これまでの校内研修では、理論や学識に対する量を比較しがちだったり、授業の形式や指導案などの形式批判になりがちだったりするなどして、教師の学ぶ意欲の阻害要因になることがあった。そこで、次のような校内研修のかたちを提案することとした。

(資料5)

##### 新しく提案する校内研修



#### IV 研究の実際


##### 1 一年目の実践

目 標	研修計画で割り当てられた各係の担当者は、原則的に <u>研修の領域・内容に関連した授業提供を組み込んだ研修内容</u> を行う。
-----	--

《目標の理由》

- これまで互いに授業を参観し合うことに慣れていないため、多くの授業参観を通して授業を参観し、児童の学ぶ姿を中心に授業交流する体制を整える。


##### ◆授業提供を組み込んだ実際の研修事例(資料6)

	<b>キャリア教育</b> : 第4学年 社会『わたしたちの鹿児島県』
	<b>目標</b> 奄美の伝統文化である大島紬は、どのようにして作られるのかを理解する。
	<b>授業の視点</b> 授業者が、キャリア教育の視点から、「働くこと」に興味・関心が低いと思われるA児を取り上げた、地域の伝統工芸を題材にして授業することでどのような様子が見られるのか観察する。
	<b>研修の実態</b> 興味・関心が低いと思われるA児だったが、教師の話をよく聞いていることが分かり、板書もよく写していた。発表をほとんどしないので、授業者側から見れば関心が低い児童に見えるということが分かり、新しい子ども理解につながった。

##### ◆校内研修年間計画

※ 授業提供が行われた研修…            , 研究授業が行われた研修…           

平成30年度 校内研修年間計画			
月	分類	内 容	備考
4	テーマ研修	テーマ研修主題・取組内容の共通理解	係
	一般研修	防災防犯(共通理解, 事前連絡なしの)	
	一般研修	研修(「なくそう差別・築こう明るい	
5	一般研修	会(りゅうがく館)	係 任
	① 一般研修	○体育実技研修(体力テストの結果を受けて)	
	テーマ研修	○テーマ研修主題における授業実践(単式学級・高学年)	
	② 一般研修	○生徒指導(学校楽しい〜と, 町の生徒指導共通理解, いじめ問題等)	
6	③ 一般研修	○道徳教育「特別の教科・道徳」	道徳教育係 特別支援教
	一般研修	○特別支援教育	
	④ 一般研修	○保健指導(アレルギー)	
7	一般研修	○服務規律	係 算
	⑤ 一般研修	○教育方法(NRT分析・)	
	⑥ 一般研修	○漢字・計算力テストの ○情報教育(情報機器,	

8	一般研修	○町人権同和教育講演会	 テーマ研修:第4学年 理科 「ものの体積と温度」
	一般研修	○町教育講演会	
	一般研修	○テーマ研修主題における授業実践(1学期の各学年における実践の報告) ○国語科教育(作文合評会)	
10	5 テーマ研修	○テーマ研修主題における授業実践(単式学級・中学年)	外国語科係
	6 一般研修	○外国語・外国語活動に関する研修	
11	一般研修	○外国語・外国語活動に関する研修(講師招聘)	教育係
12	一般研修	○外国語・外国語活動に関する研修(講師招聘)	指導係
1	7 一般研修	○外国語・外国語活動:第6学年 外国語 「世界の国々,世界の生活」	教頭係 務係 係・算 担任
	7 テーマ研修	○テストの分析・まとめ ○着度調査の採点・分析	
2	一般研修	○テーマ研修主題における授業実践(少人数複式指導・低学年)	研修係・低 学年
	8 一般研修	○教育課程 ○キャリア教育	教務係 キャリア教 育係
	一般研修	○テーマ研修主題における授業実践(2学期の実践の報告)	美術係 研修係
3	一般研修	○研修のまとめ・次年度に向けて	研修係
	一般研修	○教育課程	教務係

《一年目の成果と課題》 研修のアンケート〔質問紙法:実施期間 H31.3.11~H31.3.29〕  
《良かった点》

- 先生方のいろいろな授業を参観できたのでよかった。
- いろいろな領域にかかわる授業が見ることができたので、来年も授業を通した研修があるとよいと思います。
- VTRを見て子どもの様子を確認できたのはよかった。授業をしていると全体を流すことだけを考えているので、授業中の子どもの反応に気付かないこともあるから。
- VTRで子どもの様子を見て話し合うのはよかった。また、VTRで確認することで、気付かなかった子どもの特徴や思考の様子について気付くことができた。
- 少人数グループで職員同士話し合いをするのはよかった。みんなの前だと話すのに勇気がいるので。
- 評価の所見や学級通信などをみんなで見比べてみたのは面白い試みだったと思います。

《改善点》

- 事前の授業づくりをもっとみんなでしたいと思いました。
- 普段の授業の様子を受けて、授業づくりにかかわることができればよいと思いました。
- 管理職の先生に補教に入ってもらい、みんなで授業参観する方法はできませんか。
- 一人一授業や提供授業は、事前に割り振っておくと忘れなくてよいのかなと思います。
- 指導案を毎回作成するのは、少し大変かもしれませんが、略々案でもよいかもしれませんね。

1年目の成果と課題を生かして

## 2 二年目の実践

目 標	「子ども理解」の見方・考え方を深め、授業研究における学びのモデルを提示し、その実践に取り組む。
-----	---

《目標の理由》

- 授業研究の話合いにおいて、職員の新しい視点となる「子ども理解」についての見方・考え方を共通理解させ、それに応じた授業研究を行うことで教師の学ぶ意欲を高めるようにする。

鹿児島大学の准教授：廣瀬真琴氏を講師招聘し、専門的見地から職員の認識を深める手立てを行った。

### ◆「子ども理解」の見方・考え方についての共通理解(資料7)

- 【「子ども理解」の見方】・・・子どもの授業中の事実を記録して確認する。

例)

- 「Aさんは、ノートに△△と書いていた。」
- 「Bさんは、■■とつぶやいていた。」
- 「Cくんは、始めは〇〇と言っていたけど、Dさんと話した後は、◇◇だと言っていた。」
- 「Eさんは、何もしゃべらなかつたけれど、頷いていた。」

- 【「子ども理解」の考え方】・・・子どもの授業中の事実を分析し、子どもの立場になって「どうしてそのような行動がみられたのか」を考えて推測する。

例) A教諭： B君は、発表の時は「思いつかなくてすごいなと思いました。」と発言していた。けれど、B君のワークシートを見ると、具体的なことがたくさん書いてあったんですね。だから、発表だけ聞くと、考えていなかったのかなと教師側は思ってしまうがちになる。

【子どもの事実に基づいた分析】

B教諭：ワークシートにあれだけ書いてるってことは、ちゃんと考えてますね。  
C教諭：どんな意見でもお互いの発表を聞く雰囲気づくりやルール作りを行えば、B君みたいな子は、自分の考えを言いやすくなるのかも。

【教師の協働性による建設的なアイデア】

### ◆授業研究における学びのモデルの提示

【1グループの人数は、3～4人まで】

職員共通の課題や目標

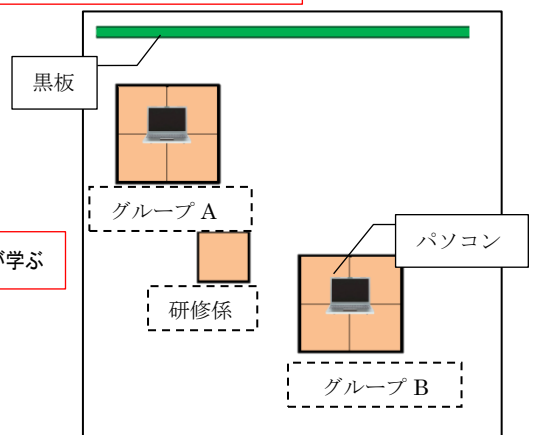
- 子どもの姿に基づいた課題について専用の指導演案とともに授業を検証する。(資料8)
- 子どもの授業中の事実に対する確認・分析をする。(VTRで事実の確認)
- 授業のよい点を、授業中の子どもの事実から根拠つけて解釈し、意見交流を通して多面的な見方・考え方を獲得する。
- 今後の追究テーマについてアイデアを出し合う。

子どもの姿から授業を見る側が学ぶ

授業を通した教師の対話

教師の協働性を引き出す

話合いの活性化を促す人数制限



授業研究時の座席配置例



◆本研究が提案する授業研究の実際

※ 本項では、2019年度の校内研修における授業研究の中で、子どもの学びの姿を通して教師の「子ども理解の見方・考え方」による深まりによって教師の協働性が顕著だった場面を取り上げた。(資料9)

【令和元年5月27日 算数科 6年】

計算の立式が苦手であるA児についての授業後における教師の対話の一部  
〔ICレコーダーを利用してトランスクリプションしたもの〕

A教諭： Aさん、結構、グループで話してましたよね。

B教諭： やっぱり、今日のメンバーのグループってよかったんじゃないですか。結構、みんなが自信ないから、お互いの考えが同レベルで、同じ土俵で話し合えてたっていうか、そんな感じでした。E先生が、今まで上位の子とペア組ませてたけど、一方通行にならないように変えてみたって、あれってよかったですよ。ありがたなと思ました。

A教諭： あー、分かる分かる。結構話してました。うん。

C教諭： あと、短く文を切ったのもよかったし、一つ一つ数字入れながら、計算させたのもよかったんじゃないですか。とりあらず、手立てとしてはOKでしたね。式を立ててたから。

A教諭： Aさん、あともうちよつとで分かりそうでしたよね。15分の12は塗ってたけど、どうしても1mのかべみたいなのがじゃまして、15分の12になるのか、迷ってましたよね。

でも、図としては、分かてる、みたい。意味は分かてると思います。

C教諭： じゃあ、この後、どうしたらいいですかねえ。D先生は、どう思います。

D教諭： 思ってたんですけど、ぼく、あれって、1 dLのところ、はさみで切ったらいいのかなあって・・・。

A教諭： なんか、グループで話してた時も、Bさんが、「ここを・・・」って、何度も指で線を引いてました。だから、あー、それ、って思ってた。

B教諭： た。

あー、それ、ぼくも同じです。ですよ。じゃあ、やっぱり、あれって切ってみせたら、分かるんじゃないですか。切ったら、あの1mのところを超えて切ったら、

A教諭： あー、ここで切ってみていいんだあってなるんじゃないですかね。

あー、そうかも。(C教諭・D教諭もうなずく)

たぶん。次の時間、やってみたら、たぶんAさん、分かるかも。



子どもの学ぶ姿から本時の授業をふり返り、次時のアイデアを話し合っている様子

子どもの事実 \_\_\_\_\_, 事実の分析 \_\_\_\_\_, 教師の協働性によるアイデア \_\_\_\_\_

《二年目の成果と課題》 研修のアンケート [質問紙法:実施期間 R1.12.5~R1.12.24]

《良かった点》

- ・ 子どもに焦点を当てて研修を行うスタイルになってから、子ども一人一人に目が向くようになった。また、学習が一番苦手な子どもに合わせた授業づくりを意識するようになった。
- ・ 細案が略案になり、時間を授業に割けるようになった。
- ・ 子どもの学ぶ姿から研修ができたことがよかった。
- ・ 子どもの姿を基に教師が対話したり、普段の授業づくりへと考えたりすることができ、とてもよいと思う。

《改善点》

- ・ 一人一授業でも、ただ授業を見るだけでなく子どもの実態を踏まえた上で見るようにできたらよい。

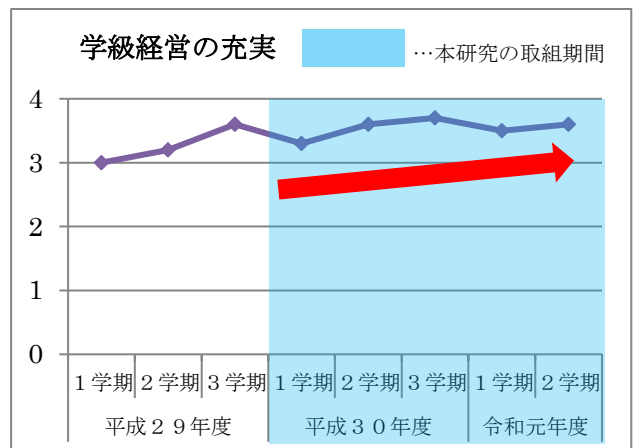
V 研究の成果

以上の取組後、本校職員に対して再度意識調査を行った。すると、「校内研修の充実感」「研修等が指導力に与える影響」「研究授業への積極性」に対しての意識が高まっていることが分かってきた。つまり、教師の学ぶ意欲が高まってきたといえる。また、子ども理解を基にした対話による授業研究を通して教師が互いに学び合い、授業研究の中で協働性が高まった場面も見られた。その意識の高まりが教師の共同作業や共同参加を生み出す。実際に本校では長年先送りされてきた運動場のコースロープの張替を夏休みに全職員で行ったり、鹿児島県教職員バレーボール大会に周囲の学校や教育委員会の職員とともに参加したりするなど教師たちが盛り上がっている姿を確認することもできた。

本校職員への研修のアンケート (資料 10)

	研究前	研究後	
授業で指導力は大切さだと感じる	9.3	9.7 ↑	+0.4
もっと指導力を高めたい	9.7	9.6 ↓	-0.1
校内研修の必要感	8.9	9.1 ↑	+0.2
校内研修の充実感	7.4	9.0 ↑	+1.6
研修等が指導力に与える影響	8.0	8.9 ↑	+0.9
研究授業への積極性	7.3	8.9 ↑	+1.6
授業についての対話	7.1	7.4 ↑	+0.3

本校職員による学校評価の変化 【4段階評価】 (資料 11)



VI 今後の課題

本研究は、まだ始まったばかりである。今後は、この成果を多くの先生たちと共有し、県下の教育に寄与していきたい。龍郷町では、中学校区ごとに児童・生徒の実態に沿って主題を設け、子どもの学ぶ姿を通じた授業参観・授業研究を行う合同研修体制を築こうとする試みがあると聞く。その取組に本研究が役立てられるように、また、子ども理解をより深め、今後の研修を更に充実させられるように精進していきたい。



龍郷町教育講演会において本研究の実践事例を発表している様子(R1.8.1) (資料 11)